

宗教者災害支援連絡会活動報告書（2013年8月～2014年8月）

以下に示すように、第16回から20回までの5回の情報交換会とシンポジウム等を行った。また、被災地方でも、シニアボランティア活動を行った。（1）情報交換会と（2）シンポジウムについて、以下にその概要を記す。

（1）情報交換会

第16回情報交換会

日時と場所：平成25年8月29日（日）16:00～19:30、於（財）東京大学仏教青年会ホール

報告

福地成氏（みやぎ心のケアセンター）「被災者の心のケア—精神医療からの取り組みの現状と課題」

城島光力氏（元代議士、元財務大臣）「政治・経済と大災害—東日本大震災の振り返りと将来の展望」

佐々木るり氏（真宗大谷派真行寺住職夫人、同朋幼稚園教諭）「保養プログラムについて」

竹島正氏（国立精神・神経医療研究センター 自殺予防総合対策センター）「精神保健と宗教者災害支援の連携の理由」

第17回情報交換会

日時と場所：平成25年11月4日（月）15時～18時、於（財）東京大学仏教青年会ホール

報告

山根憲次氏（世界救世教鎌倉教会）「宗教教団の枠を超えた保養プログラム—「鎌倉で遊ぼう」の活動報告」

ティム・グラフ（ドキュメンタリー映画監督、東北大学法学研究科大学院生・Research Associate、ハイデルベルク大学宗教学研究室大学院生）「東日本大震災と仏教」ドキュメンタリー映画の上映とディス

カッション

黒崎浩行氏（國學院大學）「南相馬ボランティア（2013年10月31日～11月1日）の報告」

林里江子氏（CLC被災地支援デスク）「写真集「3.11 I WILL NEVER FORGET YOU 支援者の見た被災地の2年」について」

稲場圭信氏（大阪大学）「大災害、広域災害時の対応チームの検討提案」

西川勢二氏（真如苑）「伊豆大島の支援活動の情報提供と連携の呼びかけ」

第18回情報交換会

日時と場所：平成26年1月20日（月）16時～19時30分、於（財）東京大学仏教青年会ホール

報告

清野和彦氏（神職・『3月10日』制作室）「『3月10日』制作室への協力の呼びかけ」

懸野直樹氏（野宮神社宮司）「京都市の行政と寺社の連携による帰宅困難観光客避難誘導計画」

葛西賢太氏（宗教情報センター）「インド・デリーで開催された「市民社会と防災」会議

池田奈津江氏（弥生神社権禰宜）「仙台市・大崎八幡宮の支援活動報告書紹介 「えんがわキャンドル」

（一般社団法人パーソナルサポートセンター）」

第19回情報交換会

日時と場所：平成26年6月2日（月）17時～20時、於（財）東京大学仏教青年会ホール

報告

木ノ下秀俊氏（真宗大谷派）「それぞれのふくしま」

星野英紀氏（大正大学理事）「高台復興住宅建設と行政・住民・菩提寺―相馬市漁師地区の場合」

黒崎浩行氏（國學院大學）「東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）第3回全国ミーティング（3月

29日）参加報告」

島藺進氏（代表・上智大学）「復興に向けた宗教者円卓会議 in 仙台（5月19・20日）参加報告」

第20回情報交換会

日時と場所：平成26年8月27日（水）15時～18時、於（財）東京大学仏教青年会ホール

報告

井上ウィマラ氏（高野山大学教授、スピリチュアル・ケア）「東日本大震災支援活動から学んでいること」

新垣元氏（医療法人「卯の会」理事長、精神科医）「震災で精神保健医療福祉が崩壊した福島県相馬市での支援活動」

葛西賢太氏（世話人・宗教情報センター）「宗援連と自殺予防の取り組み」

（2）シンポジウム等の主催・開催

2013年度 第10回アジア太平洋パストラルケア・カウンセリング学会 第6回日本スピリチュアルケア学会 合同学術大会 パネル展示企画協力

日時と場所：平成25年9月14日（土）～20日（金）、於青葉山キャンパス 理系総合研究等205

※企画協力として、参加

パネル展示テーマ「東日本大震災での各宗教団体の支援活動」

発表団体

- P-01 NPO法人サンガ岩手／吉田律子
- P-02 （公財）新日本宗教団体連合会／大滝晃史
- P-03 日本イスラーム文化センター／アキール・シディキ
- P-04 宮城県宗教連絡協議会・天理教宮城教区
- P-05 立正佼成会／保科和市
- P-06 長谷川（間瀬）恵美／桜美林大学／桜美林大学と東日本大震災後の復興支援活動（祈りの力・魂への配慮）
- P-07 浮ヶ谷幸代／相模女子大学＋渥美一弥／自治医科大学／もう一つの「心のケア」
：東日本大震災の被災者に寄り添うカフェデモンクの活動から
- P-08 森田敬史／長岡西病院ビハラー病棟／被災地に届けられた手作り布地藏
- P-09 孝道教団

- P-10 高橋原・谷山洋三・鈴木岩弓／東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座
- P-11 真如苑
- P-12 真宗支援ネット オンコのかげはし／殿平真
- P-13 (公財)世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会
- P-14 三島地区宗教者懇話会／小池日恩
- P-15 心の相談室
- P-16 臨床パストラル教育研究センター東北ブロック／千葉ゆかり
- P-17 金光教
- P-18 東北ブロック浄土宗青年会／西崙覚信
- P-19 東北ヘルプ

公開シンポジウム「現代宗教とつながりの力」

共同主催：公益財団法人国際宗教研究所、宗教者災害支援連絡会

日時と場所：平成26年2月22日（土）13:00～17:30、於大正大学1号館2階大会議室

パネリストと報告内容

久間泰弘氏（曹洞宗東日本大震災災害対策本部復興支援室分室主事/伊達市龍徳寺住職）「これまでの支“援”から、これからの支“縁”へ」

西川勢二氏（真如苑教務長補佐）「SeRVボランティア活動とその後ろ」

平澤勇一氏（天理教磐城平大教会長／天理教福島教区長）「たすけあいの展開～支援から支縁へ」

藤波祥子氏（八重垣神社宮司）「氏子の信仰に支えられて」

コメンテーター

磯村健太郎氏（朝日新聞記者）

岡田真美子氏（兵庫県立大学教授）

司会

大谷栄一氏（佛教大学准教授）

弓山達也氏（大正大学教授）

宗教者災害支援連絡会3周年記念シンポジウム「宗教と災害支援—3.11以後と今後—」

日時と場所：2014年4月6日（日）13:00～17:30、於梅窓院祖師堂（東京都港区南青山2-26-38）

主旨：2011年3月11日の東日本大地震は、地震、津波、原発事故による甚大な被害を引き起こした。

恐るべき、またたいへん悲しい災害だったが、犠牲となった方々の慰霊や被災者の支援・ケアにおいて、宗教団体や宗教者の取り組みが大いに注目された。中でも宗教・宗派の枠を超えた支援活動を行うことによって、人びととの接点が得やすく支援活動に新たな可能性が開けることも見えて来た。

だが、宗教団体や宗教者の支援・ケア活動の活性化は、東日本大震災を機に急に起こってきたわけではない。1990年代のバブル崩壊後の日本では、「無縁社会」と言われるように、孤立して生きづらくなる人々が増えていった。それとともに、貧困や自死、差別等に苦しむ人々に寄り添ったり、信仰を媒介とせず、人びとの触れ合う場を積極的に生み出そうとする、宗教者・宗教団体の活動が広がり始めていた。

宗教者災害支援連絡会は東日本大震災を機に結成されたが、東日本大震災から3年を過ぎ、以上のような経緯を省みながら、あらためて今後の宗教者・宗教団体による支援・ケア活動のあり方について考えてみたい。「無縁社会」的な状況も、多くの被災者を生む災害等が頻発しそうな状況も後退していく気配は見えない。一方、宗教団体や宗教者が社会の苦悩に寄り添って活動の場を広げていく傾向も継続していきそうだ。

このシンポジウムでは、以上のような展望の下、東日本大震災での活動を省みながら、宗教者・宗教団体による災害支援活動や、苦の中にある人々へのケアの活動が今後、どのような方向に向かっていこうとするのかについて広く考えていきたい。

プログラム

第1部

開会の辞 島蘭進（宗援連代表、東京大学名誉教授、上智大学特任教授）

基調講演「東日本大震災における連携」

湯浅 誠（社会活動家、法政大学教授、元内閣官房震災ボランティア連携室長）

活動報告

「宗援連の歩み」黒崎浩行（宗援連世話人、國學院大學准教授）

「大災害へのそなえ」稲場圭信（宗援連世話人、大阪大学大学院准教授） [[レジュメ\(PDF\)](#)]

第2部

パネルディスカッション「宗教と災害支援・ケア活動」

パネル司会 藁輪顕量（宗援連世話人、東京大学大学院教授）

パネリスト

高橋一世（気仙沼市浄念寺・住職）

白鳥孝太（シャンティ国際ボランティア会気仙沼事務所・代表）

篠原祥哲（世界宗教者平和会議仙台事務所・所長）

神田 裕（カトリック司祭、NPO法人たかとりコミュニティセンター代表）

コメンテータ：湯浅誠、島蘭進

まとめ 鎌田東二（京都大学こころの未来研究センター教授）

閉会の辞 穴野史生（宗援連世話人、神道扶桑教・管長）